

それぞれの思いを乗せる 吹奏楽の祭典

久喜市内の中学校や高校の吹奏楽部などが参加し、演奏を披露する「音楽の街・久喜市」吹奏楽フェスティバル。例年多くの市民を魅了する祭典を開催する思いと、参加者の意気込みを取材した。

市内の吹奏楽団が集結する年に一度の祭典

久喜総合文化会館大ホールが、吹奏楽の豊かな音色で満たされる。聴衆と向き合い、懸命に日頃の練習の成果を発揮しているのは、吹奏楽を愛する人々。「音楽の街・久喜市」吹奏楽フェスティバルの光景だ。

今年で28回目の開催を迎える同フェスティバル。その経緯について、実行委員を務める久喜市立太田小学校の木村信之校長は、「平成2年に始まった埼玉県芸術文化祭の一環で、久喜市の地域文化事業として始まりまし

文化の発展と、地域文化の振興に寄与するのが主旨です」と話す。

参加するのは、市内の中学校と高校の吹奏楽部、そして一般の吹奏楽団。さらに市外からゲスト高校も招かれる。年齢や所属の異なる吹奏楽団体が一堂に会する催しは珍しく、久喜市でもこのフェスティバル以外にはない。その意義について木村校長は、「勝ち負けや、賞がないのは良いですね。特に中学生にとっては、人に演奏を聴いてもらう喜びを得られる機会です」と教えてくれた。

例年、開催時期は11月中旬。多くの吹奏楽部にとっては夏の大会が終わわり、新しいチームで踏む

今年、開催時期は11月中旬。多くの吹奏楽部にとっては夏の大会が終わわり、新しいチームで踏む

今年、開催時期は11月中旬。多くの吹奏楽部にとっては夏の大会が終わわり、新しいチームで踏む

フリモARで木村校長からのメッセージが流れます!

「音楽の街・久喜市」吹奏楽フェスティバル実行委員 久喜市立太田小学校 木村信之校長



もともとは久喜市立久喜東中学校の吹奏楽顧問として同フェスティバルに関わっていたが、今年からは実行委員に。吹奏楽に関係ない人々にも楽しんでほしいと話す

木村校長は講師も担当。全ての吹奏楽部へ向けて丁寧に書き込むのは大変だが、毎年生徒の成長を見られるのは嬉しいと笑う



久喜市立久喜南中学校吹奏楽部。夏の大会後も活動していた3年生16人は、同フェスティバル参加時には引退。1、2年生の24人でステージへ挑む

久喜市立久喜南中学校吹奏楽部役員

田中柚葉さん

砂川玲さん

荒俣奈月さん



3年生の引退後に部をまとめていく。2年生役員3人。同フェスティバルを全身全霊で楽しみ、聴いてくれる人も自分たちも笑顔になれるように頑張りたいと声を揃える



ひたむきに練習へ励む久喜市立久喜南中学校の吹奏楽部。昨年は南中オリジナルメドレーを演奏して会場を沸かせた

「音楽の街・久喜市」吹奏楽フェスティバル

日程/11月11日(日) 時間/10:00会場、10:20開演 場所/久喜総合文化会館大ホール 入場料/無料 問い合わせ/久喜市教育委員会 生涯学習課 ☎0480-22-5555

【出演団体】 1 久喜中学校(10:40) / 2 久喜南中学校(11:00) / 3 栗橋東中学校(11:20) / 4 久喜東中学校・太東中学校(11:40) / 5 鷲宮高等学校・久喜北陽高等学校・鷲宮西中学校・鷲宮中学校(12:45) / 6 鷲宮東中学校(13:10) / 7 久喜高等学校(13:30) / 8 菟浦中学校・菟浦南中学校(13:50) / 9 久喜シンフォニック・ウィンズ(14:25) / 10 白岡高等学校(14:50) / 11 不動岡高等学校(15:20) / 12 花咲徳栄高等学校(15:50) ※カッコ内は出演予定時間。

吹奏楽フェスティバルのステージでは、さまざまな団体の多彩な演奏が楽しめる。なかにはコーラスを入れる団体もあり、会場も盛り上がる

フリモARアプリをダウンロード



「フリモAR」を検索

※AppleおよびAppleロゴは米国その他の登録されたApple Inc. の商標です。App StoreはApple Inc. のサービスマークです。 ※Google PlayおよびGoogle Play ロゴは Google Inc. の商標です



市民と演奏者が一体になる 楽しくも学びの多い場

入場無料の同フェスティバルは、市民にとっても吹奏楽を気軽に、そして存分に楽しめる良い機会だ。実際、毎回多くの市民が会場を埋め、時には立ち見も出るほどである。

市が行っている来場者アンケートを見ると、「毎年楽しみにしていて、来聴しています」「生徒のレベルが高くてびっくりした。一生懸命に演奏しているのが最高に良い」ととても感動しました。など、好意的な言葉が数多く並ぶ。なかには「他校の演奏を聴いていると、勉強になりました」と、同年代からの書き込みも。木村校長も、「吹奏楽に関わりのなかつ

た人が、その魅力を知る契機となる。それは本当に嬉しいですね」と言葉を重ねる。

演奏を披露する人々はどう感じているのだろうか。

久喜市立久喜南中学校で吹奏楽部を指導する山下珠枝先生は、同フェスティバルは生徒にとって学ぶ場だと話す。「他の演奏者への挨拶はもちろん、吹奏楽的な表現力、拍手への対応といったステージマナー。吹奏楽フェスティバルだからこそ吸収できるものは、多いですね」とほほ笑む。

久喜南中学校吹奏楽部役員の生徒にも話を聞いてみた。

田中柚葉さんは昨年、中学1年生で参加した印象を、「会場全体が、ひとつになったように感じました」と話す。大会とは違い、演奏

者にも聴衆にも緊張感や不安はなく、温かな雰囲気や心に残ったと笑顔だ。砂川玲さんも「名前の通り、多くの吹奏楽仲間と心から演奏を楽しむお祭りですね」とうなずく。

中学生にとっても、大勢の人々と吹奏楽の魅力を共有する場である同フェスティバル。「だからこそ、人々に伝わる演奏をしなければなりません」。それが難しさであり、やりがいでもあると、荒俣奈月さんは結んだ。

吹奏楽を愛する人々と市民が一体となる、年に一度の祭典はもうすぐ。まだ足を運んだ経験のない人は、ぜひ今年こそ観覧してほしい。音楽の街・久喜市にふさわしい、笑顔あふれるステージが、そこにあるはずだ。